

営農タイムリー

今後注意すべき病害虫

イネ

病害虫発生予察第5号より抜粋

1. トビロウンカ、コブノメイガ

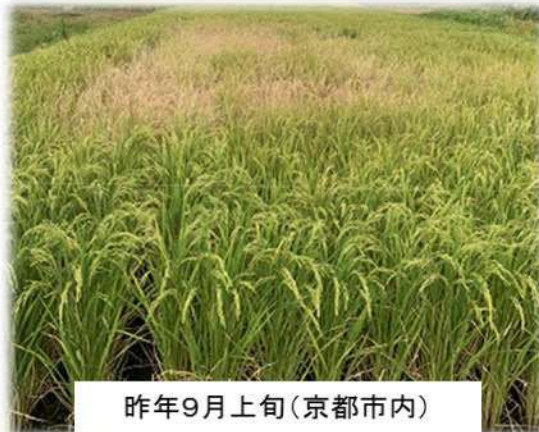
6月第2半旬(10日)現在、トビロウンカ及びコブノメイガの予察灯での誘殺を認めていない。いずれも海外飛来害虫であるため、今後梅雨前線が北上したり、活動が活発化すると多飛来することがあるので、予察情報に十分注意する。



成虫



幼虫



昨年9月上旬(京都市内)

IRACコード	薬剤名	希釈倍数 / 使用薬量	使用時期	使用回数
3A	MR. ジョーカーEW	2000倍	収穫14日前まで	2回以内
	トレボン乳剤	1000~2000倍	収穫14日前まで	3回以内
4A	スタークル豆つぶ	250~500g/10a	収穫7日前まで	3回以内
	スタークル粒剤	3kg/10a	収穫7日前まで	
2B	キラップ粒剤	3kg/10a	収穫14日前まで	2回以内
	キラップ微粒剤F	3~4kg/10a	収穫14日前まで	

注

奈良県でトビロウンカの注意報が発表されました。(要約、抜粋)

対象地域 : 奈良県全域 発生時期 : 早い 発生量 : 多い 対象時期 : 7月

1 注意報発表の根拠

- (1) 5月の飛来に続いて、6月21日以降、桜井市池之内の予察灯でトビロウンカの断続的な多飛来を観測
- (2) 6/21:8頭、6/22:3頭、6/25:1頭のトビロウンカが誘殺されました。これは平年より多く、平坦地域被害が多発した昨年度と同等。

2 防除上の注意事項

- (1) 田植え時にトリフルメゾピリムを含む箱粒剤(フルスロトル箱粒剤、防人箱粒剤など)を処理していない場合は、7月中旬に必ず防除して下さい。
- (2) 液剤散布を行う場合、出穂後では株元に薬剤が付着しにくくなります。出穂までに株元をねらって散布して下さい。

野菜

1. 褐斑病（キュウリ）

発生すると被害が大きいので、夏秋キュウリでは注意し、下葉の摘葉、摘心等の予防に努める。

キュウリ 褐斑病

病徴と診断 : 主に葉に発生する。初めハローを伴った黄褐色のごま粒大の斑点を生じその後、病斑は拡大して周縁不鮮明な淡褐色の不整形病斑となる。健全部との境界の葉表に灰白色綿毛状のカビを生じる。病斑は最初下位葉に現われ、次第に上位葉に出現する。早期枯れ上りの原因となる。

伝染経路と

発病条件 : 病原菌は被害茎葉・種子表面・育苗資材に付着して越冬し、翌年の伝染源となる。高温・多湿条件下で発生しやすい。窒素質肥料の多用は本病の発生を助長する。

防除の

- ポイント** :
- **ハウス栽培では換気を十分に行う。**
 - **肥培管理は適正に行う。**
 - **下葉の老化葉は早めに除去する。**
 - **薬剤による防除は、他病害との同時防除を行う。**



■ 褐斑病の防除体系 例

F: M05(M) **タニール1000**

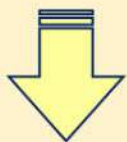
[1000倍 収穫前日まで/8回以内]

F: M07(M)

バクコート
フロアブル

[2000倍 収穫前日まで/ 7回以内]

発病前は



F: M01(M)

グリーンキャス

[エコショット+銅]

[1000倍 収穫前日まで/-]

予防剤を **ローテーション散布**

F: M03(M)

ペンコゼゴフロアブル [500倍 収穫前日まで/ 3回以内]

ペンコゼゴ水和剤 [600倍 収穫前日まで/ 3回以内]

シマンマイコンフロアブル [500~800倍 収穫前日まで/ 3回以内]

発病が認められたら

F: 3(G1)

I: UN

F: M03(M)

テーク水和剤

[サンリット+マンゼブ]

[600~800倍 収穫前日まで/ 3回以内]

F: 40(H5)

F: M05(M)

プロポーズ

顆粒水和剤

[マモロット+タニール]

[1000倍 収穫前日まで/ 3回以内]

治療剤を加えた**ローテーション散布**

F: 7(C2)

パレード20
フロアブル

[2000~4000倍 収穫前日まで/ 3回以内]

ネクスター
フロアブル

[1000倍 収穫前日まで/ 3回以内]

F: 40(H5)

I: UN

F: M03(M)

カンパネラ 水和剤

[マモロット+マンゼブ]

[1000倍 収穫前日まで/ 3回以内]

2. タバコガ類

- (1) 6月第2半旬現在、オオタバコガのフェロモントラップへの誘殺数は、京田辺市で平年比やや多く、亀岡市で平年比やや多いことから、今後、本種の発生状況に注意が必要である。
- (2) 果実に食入すると散布薬剤の薬効が低下するので、早期発見に努め、食入前及び若齢期の防除に留意する。

ナス科野菜 オオタバコガ

形態：成虫は体長約20mm、開張約40mmで全体黄褐色で黒褐色の線や斑紋がある。老熟成虫は体長35～40mmで体色は淡緑色、緑褐色、黄褐色など変異が多い。タバコガによく似ている。

生態と

被害：年3～4回の発生で、夏期が高温少雨の年に発生が多い。被害は盛夏から初秋にかけてが多い。産卵は1個ずつ植物体に産み付けられる。蛹で休眠することが知られており、蛹越冬と考えられる。寄主範囲は広く、ウリ科、ナス科、アブラナ科その他多くの野菜、花卉を食害し、特に果菜類の場合には果実内に潜り込むため被害はきわめて大きい。

防除の

- ポイント：● 被害果は放置せず、摘みとって処理する。
● 幼虫の食害が見られたら、ふ化幼虫を対象に防除を行う。



蛹



成虫

主な防除薬剤

RAC コード	薬剤名	作物名									
		トマト	ミニトマト	なす	ピーマン	とうがらし類	すいか	未成熟 とうもろこし	キャベツ	はくさい	レタス
3A	アディオソ乳剤				○	○					
	アーデント水和剤	○	○								
	ハクサップ水和剤			○				○	○	○	
5	スピノエース顆粒水和剤	○	○	○	○					○	
	ディアナSC	○	○	○	○		○			○	
6	アニキ乳剤	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	アフーム乳剤	○	○	○	○	○		○		○	
13	コテツフロアブル	○	○	○	○	○	○		○		
22A	トルネードエースDF	○		○	○					○	
22B	アクセルフロアブル	○	○	○	○				○	○	
28	フェニックス顆粒水和剤	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	プレバソソフロアブル5	○	○	○	○	○	○		○	○	
	ベネビアOD	○	○		○			○	○		
	ヨーバルフロアブル	○	○	○	○		○	○		○	
30	グレーシア乳剤	○	○	○	○				○	○	
	プロフレアSC								○	○	
UN	プレオフロアブル	○	○	○	タバコガ類		○	○		○	